

寛永
行幸

2026年
12月6日(日)
開催

※小雨決行・雨天中止

寛永行幸四百年祭 行幸行列再現

四百年の時を超えた、
寛永の行幸行列が再現されます

400年前、御所から二条城まで続いた「寛永行幸」の壮大な行列。その歴史的な行幸行列を再現する時代行列を、2026年12月6日(日)に開催します。

寛永3年(1626)の行幸では、誰がどのような装束を身にまとい、どのような順番で二条城へ向かったのか。当時の史料を検証しながら、令和のいま実現できる行列としてよみがえらせます。

行列する人、見守る人、その双方が一つになってつくり上げる、400年後の寛永行幸。2026年12月6日、京都のまちに寛永の時代絵巻がよみがえります。



寛永行幸

400年前に行われた御所から二条城までの行幸行列。 これを再現する時代行列を、2026年12月6日(日)に開催します。

寛永の時代絵巻が現代によみがえる

当時、誰がどのような装束を身にまとい、どのような順番で行列が進んだのか。史料を検証し、令和の今実現できる行列をつくり上げました。実際の行幸行列では9000人が参列したといわれています。今回は【中宮和子行列】【將軍家光行列】【後水尾天皇行列】の3つのグループで表現し、全国からの一般公募を含めた約330人規模で再現。行列の参加者は装束などを身にまとい、江戸時代さながら京のまちを練り歩きます。

400年の時を超えた、寛永絵巻の一部になる

さらに沿道の観衆にもご注目。泉屋博古館蔵の《二条城行幸図屏風》には、思い通りの装束で、沿道で行列を見物する大勢の観衆が描かれています。その様子も再現するべく「装束観覧席」を出発地である京都御苑に設置。時代絵巻の行列再現の一部として当時の装束を身にまといご覧いただきます。

※再現行列の募集は終了しています

乗り物や装束に注目を！

行列参加者は当時の装束を再現した装いで各役割の人たちが歩きます



天皇の鳳輦

屋根に鳳凰の飾りがついています。



家光や和子が乗る牛車

記録では行幸の際、牛車の牛は二頭立てだったとされます。



一日晴は特別な日だけ！

寛永行幸のような特別な行事では「一日晴」といって、下裳や表袴は好きなものを着用できました。



將軍の警護役！帯刀

萌黄地に金の唐花の「大紋」という装束を着用しています。紋を大きく染め抜いたことからその名があります。



一際目立つ、隼人の兵士

天皇や宮中の警護を担当。鳥の形を模した「鳥兜(とりかぶと)」をかぶった姿が特徴的です。

四百年前のリアル寛永行幸は？

史実の寛永行幸は、一つの大行列ではなく、いくつかの段階に分けて進められました。最初に御所を出発したのは、中宮和子をはじめとする女一宮らの一行。次に、天皇を迎えるために、三代將軍徳川家光が大名を従えて二条城から御所へ向かいました。そしていよいよ後水尾天皇の行幸です。当時の行列参加者は9000人。馬540頭、牛車12台、輿470基が連なるといって大規模なものでした。中立売御門から出た行列は中立売通を西に進み、堀川通で左折して南下。二条城へは東側の門から入城しました。全部で約2.6キロメートルの道のりです。その沿道をたくさんの観衆が埋め尽くし、行列を見守りました。

「寛永行幸四百年祭」行幸行列再現イベント

開催日

2026年12月6日(日)

※小雨決行・雨天中止(当日早朝判断)

開催時間

12:00頃 出発式(京都御苑)

12:30頃～ 行列開始

15:00頃 二条城到着

※予定の時間については状況により、若干の変更が発生する可能性があります

【12:30頃】

京都御苑(建礼門前)出発

京都御苑(中立売御門)通過

烏丸通南下(下長者町通へ右折)

下長者町通西進(東堀川通へ左折)

東堀川通南下(二条通へ右折)

二条城(東大手門)到着

【15:00頃】



※12月6日の再現行列のルートは史実とは異なります

「行列再現」の応援をよろしくお願いいたします！

法人・個人を問わず、皆さまからのご寄付・ご協賛を募っております。協賛については、観覧席での見学をはじめ、様々な特典がございます。ご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

詳しくはこちら！



「二条城行幸図屏風」部分 江戸時代(京都市指定文化財 泉屋博古館蔵)

お問い合わせ

寛永行幸四百年祭実行委員会

<https://kaneigyoko400.jp/>

info@kaneigyoko400.jp



公式HP



御所と二条城が三度ずれながら重なり合うかたちをもとにしたものです。文字は近衛信尋の書、ロゴマークは近衛忠大氏によるものです。



文化庁 令和8年度文化資源活用事業費補助金(全国各地の魅力的な文化財活用推進事業)採択事業